

令和3年度在宅医療サポート介護支援専門員研修報告

開催日：令和4年3月13日(日) 13時30分～16時00分

研修方法：Zoomでのオンライン研修

参加者：24名

【報告】

介護支援専門員が医療ニーズの高い利用者に対し、適切なケアマネジメントを行うための必要な医療知識を習得するとともに、医療と介護との連携について学習することを目的として、「在宅医療サポート研修」を開催しました。

当日は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、Zoomでのオンライン研修としました。介護系基礎資格を持つ介護支援専門員を中心に24名の参加がありました。

まずは、徳島県慢性期医療協会会長で当協会副理事長でもある保岡正治先生より「高齢者の痛みについて」の講義がありました。

痛みのメカニズムから始まり、痛みの分類や高齢者の痛みについての専門的なお話を傾聴することができました。

保岡先生より「『痛み』はADLに大きく影響するため、課題分析に際してニーズやケアの方向性を的確に把握しておく必要があり、介護分野でもエビデンスに基づいたケアマネジメントを行う時代を迎えている」との提言をいただきました。

続いて、徳島県看護協会地域ケア部門統括、当協会理事の邊見知恵子先生より「訪問看護師と介護支援専門員との連携～訪問看護の立場から～」の講義がありました。

訪問看護目指すもの、多職種連携についてなどの講義を傾聴し、「ケアマネさんは気軽に訪問看護に相談してください」と、頼もしいお話もありました。

最後に、当協会理事の中健太郎氏より「在宅医療・介護連携推進事業について」の講義がありました。厚生労働省が進める在宅医療・介護連携推進事業の内容と、介護支援専門員の役割などの内容でした。

在宅医療・介護連携では多職種連携が重要であり、介護支援専門員の役割も重要になります。今後も引き続き、このような研修会を開催していきたいと思えます。